

地球村ビジョン策定委員会（第1回）議事概要

日時： 令和元年9月26日(木)16:00～17:30

場所： ホテルルポール麴町3Fアメジスト

- 次第： 1 開会
2 設置要綱について
3 議事 地球村創生ビジョンについて
 (1) 資料説明
 (2) 意見交換
4 その他
5 閉会

概要： 次第に沿って、資料説明、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り。

- ILCが我々にとって役に立つのかを日常生活の中心に据えていくと、居住とか観光とか枝葉の部分がつながる。なにかできるかわからないけど、できたら生活が一変するに違いないでは、ふわっとした感じで人は動かない。そこをつなぐのか地球村という考え方。
- 東北の森林・里山は世界でも特徴的。木使いに食など生物系の先生と加速器の先生のディスカッション、交流もあるのではないか。
- 「儲かる」ではなく、人間として共に切磋琢磨する場を見ることができるとも崇高。
- 心の安らぎを得るなど、ベリオネアが注目するような仕組みづくり。
- 一般の人にわかりやすいようにかみ砕いて説明することが必要。
- 地元だけでなく、全国的にわかってもらふ工夫が必要。
- 「地球村」という表現はいいと思う。売りになる表現は強調していく。
- 人間性をイノベーションとの両立について強く押し出す。地球村が、人間らしさや人間性・主体性を発揮できる場、コミュニティの原点を見つめなおす場として位置づける。
- 世界から人が集まり、地球の共有財産として地球村を育てる、育むという視点が重要。
- 地球村とは、人類が地球という観点で一緒になって未知への探究を進めるという地球システムを東北、日本にどうビルトインするかということ。
- ILCと一緒に考えながら、新しい国土形成、まちづくりの計画をつくっていけないか。
- 気候変動の子供たちのデモや相対性理論など物理現象に対する子どもたち

の理解など世界観が劇的に変わっている。世界観をどう持ち、みんなで共有し、発展させることが大事。

- イノベーションの世界では、デザイン、アートが重要。
- SDGs を抽象的なキャッチフレーズではなく、具体的に前に進めるプロジェクトが日本の中に必要。地球村が重要なフィールドになる。
- 人類の次のブレークスルーをやる。その意義を共有して、人類の giant leap のために必要と思えるよう、そういうプロジェクトであるべき。
- 人間性が欠落しがちな AI に象徴されるイノベーションを取り戻すという意義をもっと強く打ち出す。
- 平泉、縄文文化、平和思想と最先端の物理の着地とをうまくつなぐのが地球村ではないか。
- 国際情勢と一国主義、民族対立のなかで必要性が説明できるのではないか。アポロ 11 号はわかりやすい。それを超えた宇宙全体の仕組みについて工夫の余地がある。
- 宗教を超え、人類、科学技術に貢献する地球村。
- 原体験として次世代のワクワク感が ILC の次のプロジェクトの主体になるなど教育効果の求心力のある地域。
- 大きな理想に向かって、目標を共有することが重要ではないか。
- ILC に関わらず、地球村を実現する国であるべき。
- 人類の無限の可能性に向かって挑戦する場、協働する場で、次世代を育て学習する場。